

宮田守男 ファイブ風 (現場)からの

「トム・ソーヤーの冒険」で知られる、米国の作家マーク・トウェインの言葉に「人類にはひとつ、とても効果的な武器がある。

それは笑顔だ。笑顔は周りを明るくしたり、前向きにしたり、安心させたりする。だが新型コロナウイルス感染症が、地域内であつたと報道されると、どんなに笑顔が素敵な人でも疑心暗鬼になってしまう。

8月の朝に「NHKニュースおはよう日本」の「特集 新型コロナ」のコーナーで紹介された「ニクセン」が印象に残る。なにもしないで、頭を空っぽにして、のらりくらり過ごす「ニクセン」というオランダ流のスト

レス解消法が注目されている。オランダの私たちはコロナで自粛生活の中に、「ニクセン」を楽しんでいたという。新型コロナウイルス感染症が止まらない。それらに起因するののか、心配な報道が続く。4

ぼーっと時間を過ごし、頭を空っぽにする時間も大切だ

で1万人以上の削減、「フルバンク型」店舗は、23年度末までに3分の1との見通しだ。また6月には、中部圏社会経済研究所は、新型コロナウイルスの流行収束が本年度末にずれ込む最悪のケース

月には読売新聞で、三菱UFJ銀行は構造改革を加速、17年度に約4万人いた従業員を、大量採用世代の定年退職による自然減に加え、新卒採用の抑制により2割に相当する8000人を減員。業務量

見通しを公開。8月、上場企業の2020年4〜6月期の国内総生産で、純利益の合計が、前年同期比53・7%減の利益半減の戦後最悪のマイナス成長の見通しと、企業業績先行きの厳しさを発表。そして東京商工リサーチは、今年に入って早期退職や希望退職を募集した上場企業が52社、対象者数が9323人にのぼったと発表

明日は、「我が身」と考えてしまう厳しい現実だ。何もしいのは意外に難しいと、大自然を満喫し、都会に離

れ、ひなたぼっこしながら芝生に寝転がったりして、ストレスと付き合いたいと、別荘への関心が高まっている。だが現実には、別

荘地は値上がりが続け、容易に受け入れてくれないようだ。「ニクセン」を意識した観光戦略は、これからの在り方なのかもしれない。



(NPO法人信州地域社会フォーラム会員)

富栄養化が進んだ水域に見られるシラサギ? が近くに飛来。周辺の環境を考えさせられる